



山梨学院大学 Yamanashi Gakuin University

文化的多様性を享受し国際感覚を醸成

山梨学院大学が育む 国際化適応力

2021年、創立75周年を迎えた山梨学院大学は、これまでに国際リベラルアーツ学部 (iCLA) の設置や留学支援事業、各国駐日大使による講演会など、「全学的国際化」に向けた施策を次々と実施。20年には学生の異文化交流や語学学習を支援する施設「ランゲージコモンス (LaCoMo)」を開設した。激しく変化する世の中で「大学もスピーディーに国際化を進める必要がある」という山梨学院大学の取り組みに迫る。

法人名称を変更して 国際化戦略を加速

山梨学院大学は国際化への取り組みを強力に進めている。2030年までに学生、教員、職員の外国人比率と、全授業科目のうち外国語で行う授業の割合をそ

れぞれ30%に引き上げる「30プロジェクト」を推進。さらに、「全学的国際化」を通じた、創造的でクリティカルな思考力や、積極的に物事に取り組む意欲と態度を育成する「教育の質的転換」を目指す。
秋田辰巳国際担当学長代



駐日ロシア連邦特命全権大使のミハイル・ユーリエヴィチ・ガルージン氏による講演会の様子



「アフリカフェスティバル」で行われた音楽祭の様子

文化的多様性をリソースに 「全学的国際化」を推進

全学的国際化の一助とし、グローバルな視野の醸成を目的に19年からスタートしたのが、各国駐日大使、外交官による講演会やイベントである。これまでにネパール大使、コソボ大使、ロシア大使による講演会を実施したほか、アフリカの文化や経済、スポーツ、音楽などに触れる「アフリカフェスティバル」を開催。

「ダイバーシティ理解を進めるのに、一般にはなじみの薄い国や地域と交流することは効果的です。要するに、日本ではアメリカ人と触れ合う機会があっても、コソボ人と触れ合う機会はめったにないでしょう。そこからより多様な視点や考え方が得られるのです」

（秋田国際担当学長代理）
20年11月に開催されたアフリカフェスティバルではケニア大使館参事官が講演を行い、陸上競技部の上田誠仁監督と山梨学院大学出

身で現在は桜美林大学陸上競技部の真也加ステファン 駅伝監督によるトークショーや音楽祭、物産展が開催された。

コロナ禍の開催で会場は人数制限があったが、同時にオンライン配信を行い、イベント終了後のアンケートによれば、9割以上が高く満足する結果になった。

「とくに、海外交流などに前向きな学生には学内の多様性だけでなく、社会と結び付いた取り組みやアカデミックな内容に触れる機会を提供したい。そのために、スタッフは大使館などとのつながりを構築し、本学が交流の場となるよう努めています」(秋田国際担当学長代理)



国際担当学長代理
秋田辰巳

国際的な視野を広げ 世界とつながる環境づくり

21年4月にはヨルダン大使のトークショーやヨルダンの難民をテーマとした映画会を実施し、10月にはインドネシアフェスティバルを予定している。

さらに、ダイバーシティを受容するための環境整備として、20年4月には「ランゲージコモンス (LaCoMo)」を開設。カフェに立ち寄るようにリラックスできる空間をつくり、カジュアルに異文化交流を行うことで、学生の外国語に対するハードルを下げ、学習をサポートする狙いだ。

LaCoMoには English CafeやJapanese Cafeがあり、English Cafeでは外国人講師による一対一の無料の英語レッスンが予約制で受講できる。Japanese Cafeでは「日本語サポートデスク」で留学生が学習や生活に関する相談を受けられる。このサポートデスクはレポート



「LaCoMo」のEnglish Cafeは、ソファ席もあり落ち着いた空間になっている。リラックスした雰囲気、コミュニケーションを図ることができる



「LaCoMo」のJapanese Cafeは、日本情緒あふれる和室。訪れる人々のコミュニケーションが自然と活発になる、居心地のよい空間だ

の執筆や学習計画の相談など教員による専門的サポートだけでなく、学生によるピアサポートが用意されており、日本でのリアルな生活に関する手助けもしている。

また、20年度は海外への留学が困難になったが、日本にいながら海外の企業や日本企業の海外拠点発の就業体験を行うオンライン海外インターンシップ企画を実施し、数十名の学生が参

加した。

21年度以降はさまざまな滞在地や研修メニューが用意された1〜2週間程度の短期間海外研修で、日本人学生は誰でも支援金制度を活用できる「Enjoy海外」プログラムを企画。さらに海外の提携大学の学生が気軽に山梨に来られるよう「Enjoy YGU」プログラムも準備中である。「大学は社会に出る一歩手前の教育機関ですから、

社会に出たときに国際化に適応できる人材の輩出が求められています。そのため、私たちはスピード感を持ち、世界中からさまざまな国籍、人種、価値観を持った人々を集め、お互いに刺激し合って学びを深める環境をこのキャンパスにつくっています。世の中の激しい変化の中で、学生たちは卒業後に何らかの課題や困難に直面するでしょう。しかしそのとき、山梨学院大学で培った適応力や創造的な思考力、物事へ積極的に取り組む姿勢があれば、彼ら彼女らが活躍する道は必ず開けるはずですよ」(秋田国際担当学長代理)

山梨学院大学には扉がなく、市民が気軽にキャンパスを訪れ、海外からの留学生も幅広い年齢層の人と交流できる。今後さまざまな人がキャンパスに集い、多様性を肌で感じられる環境の構築を目指し、グローバル社会で求められる適応力や人間性を実践的に育む大学としての挑戦を続ける。